

令和2年12月1日

December 1, 2020

大学院学生各位 To All Graduate Students

令和2年度

## 基盤医学特論 開講通知

Information on Special Lecture Tokuron 2020.4-2021.3

**題目：シングルセル解析で紐解くウイルス病原性発現機構**

**Title: Viral pathogenesis analyzed by single cell analysis**

近年のシングルセル解析技術の進歩は目覚ましく、生物学・医学分野においてブレークスルーとなる知見が生み出される大きな原動力となっている。従来の細胞集団レベルでの解析法では、研究対象（例えば、血液やがん組織）に存在する細胞集団の平均値を取得し、生理的、病理的背景を理解しようとしてきた。血液やがん組織には様々な種類の細胞が混在しており、得られる情報の解像度が低いため、正確に病態をとらえることが困難であった。その点において、シングルセル解析は組織中に存在するそのような多様な細胞の個々の状態をとらえられることが大きな利点である。



ヒトT細胞白血病ウイルス1型（HTLV-1）感染者は日本に約80万人存在し、その大部分（約95%）は無症候性キャリアである。約5%の感染者で感染細胞のがん成人T細胞白血病（ATL）を、約0.5%の感染者で慢性炎症性疾患のHTLV-1関連脊髄症（HAM）を発症する。ATLやHAMはひとたび発症すると、その予後が不良であるため、早期診断法や発症予防法や確立が急務である。

現在、我々はHTLV-1感染者検体シングルセル研究を進めており、HTLV-1感染によってT細胞が本来持っている分化や活性化、恒常性維持機構がどのように攪乱され、病原性を発揮しているのかが明らかになりつつある。本講義では現在の研究進捗について紹介したい。

講師：佐藤 賢文（熊本大学・ヒトレトロウイルス学共同研究センター）

Teaching Staff: Yurifumi Satou (Joint Research Center for Human Retrovirus Infection, Kumamoto University)

日時：令和2年12月1日(火) 16時30分より(90分)

Time and Date: 16:30, Tuesday, December 01, 2020

言語：日本語 Language: Japanese

※関係講座・部門等の連絡担当者：ウイルス学 木村 宏（内線 5187）

Contact: Hiroshi Kimura, Department of Virology (Ext. 5187)

※Zoomにて開催します。This lecture is held through Zoom. 講義のURLは前週金曜日に学務課よりメールで送信

される通知を確認してください。The URL for class will be announced by the e-mail“【med-all】RKR&TPRO

Lectures Scheduled Coming Week” sent on Friday of the previous week.

※講義中の録画・録音は禁止します。Recording this lecture is not allowed.

※講義中はカメラをオンにしてください。Please turn on a camera during class time.

※出席確認方法は授業中にお知らせします。Attendance is checked through this lecture.

医学部学務課大学院係  
Student Affairs Division, School of Medicine